

エコアクション21 環境活動レポート

2013年度版

(運用期間 2013年4月1日～2014年3月31日)



 **太陽インダストリー株式会社**

管理本部

作成日付: 2014年4月30日

訂正日付: 2014年8月22日

目次

1. 事業活動の概要

- 1-1. 会社概要
- 1-2. 対象範囲
- 1-3. 事業の規模
- 1-4. 沿革
- 1-5. 組織図

2. 企業理念・環境方針

- 2-1. 経営理念
- 2-2. 企業行動憲章
- 2-3. 環境方針
- 2-4. エコアクション21実施体制

3. 環境目標

- 3-1. 過去の環境負荷実績
- 3-2. 環境目標（中期目標）

4. 環境活動計画

5. 取組結果と取組内容

- 5-1. 環境目標の達成評価
- 5-2. 考察
- 5-3. 取組内容

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反訴訟等の有無

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 事業活動の概要

1-1. 会社概要

社名	太陽インダストリー株式会社 (TAIYO INDUSTRY LTD.)
代表者名	代表取締役社長 水口 真
設立	1965年7月1日
資本金	3億円
従業員数	506名 (2014年3月31日現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールケースの製造・販売、包装資材の販売 ・人工大理石製品・強化プラスチック (FRP) 製品 ・レジンコンクリート製品の製造及び梱包出荷業務の請負

<全組織の概要>

事業所名	所在地	人員	事業活動内容
本社	北九州市小倉南区湯川4丁目1-1	10	組織全体の総務・経理・人事等の管理業務
戸畑工場	北九州市戸畑区川代2丁目3-7	67	段ボールケース・包装資材の製造・販売
中津工場	大分県中津市上如水1342番地	108	人工大理石製品・樹脂成形品の製造
中津新田工場	大分県中津市大新田425-2	49	レジンコンクリート製品の製造FRP成形品の製造 重量物段ボールケースの製造・販売
小倉事業所	北九州市小倉北区中島2-1-1 TOTO小倉工場内	118	衛生陶器製品の製造、及び、梱包出荷業務の請負
中津事業所	大分県中津市大字是則700 TOTOサニテック中津工場内	134	衛生陶器製品の製造・検査、及び梱包出荷業務の請負
大分事業所	大分県臼杵市大字武山1894番地の	20	段ボールケース・包装資材の製造

1-2. 対象範囲

事業署名	太陽インダストリー株式会社 管理本部
代表者名	専務取締役 管理本部長 四辻正信
所在地	北九州市小倉南区湯川4丁目1番1号
環境管理責任者	管理部 江頭 潤
環境事務局	管理部 立山 実
業活動の内容	製造業としての全組織の生産活動に伴う、総務・人事・経理等の管理業
人員数	10名 (2014年度3月末時点)
延べ床面積	452.95㎡
連絡先	TEL: 093-921-0023 FAX: 093-941-6866

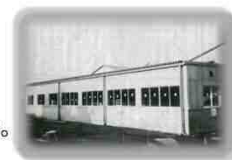
1-3. 事業の規模

項目	単位	2011年度	2012年度	2013年度
人員数	人	10	11	10
床面積	㎡	452.95	452.95	452.95

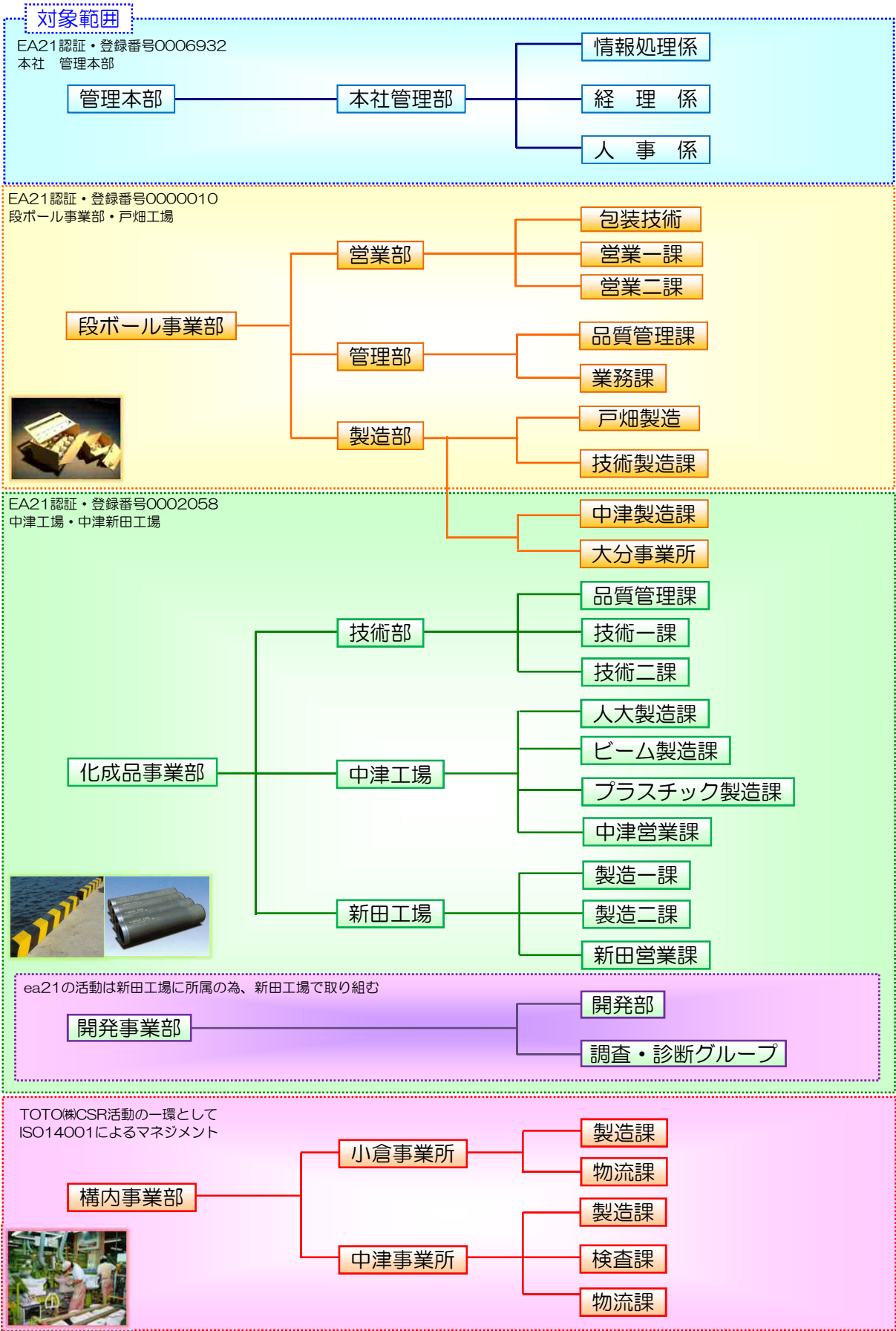
※人数に誤りがあり、訂正を致しました。
 誤：2012年度 10人 2013年度 9人
 正：2012年度 11人 2013年度 10人

1-4. 会社沿革

- 昭和33年 陶器用特殊包装材料を考案し、太陽紙器工業所発足。
- 昭和34年 段ボール製造部門を新設。
- 昭和37年 小倉段ボール製造工場を建設。
- 昭和40年 事業の拡大に伴い、太陽紙器有限会社へと法人設立。
- 昭和42年 東陶機器株式会社小倉第一工場内において、包装関係業務の請負開始。
- 昭和43年 東陶機器株式会社中津工場内において、包装関係業務の請負開始。当社中津工場を建設。
- 昭和47年 当社中津工場内に段ボール工場を建設。当社中津工場内に人工大理石製造工場を建設。
- 昭和56年 小倉工場に段ボール製造工場を増築。
- 昭和61年 当社中津工場内に樹脂製造（FRP）工場を建設。
- 昭和62年 当社中津工場内に人工大理石製造第2工場を建設。
- 平成 2年 太陽インダストリー株式会社へと組織及び社名変更。
- 平成 3年 中津新田工場第一工場として、重量物梱包用段ボール製函工場を建設
- 平成 5年 中津新田工場第2工場として、レジンコンクリート製造工場を建設。
- 平成 9年 中津新田工場が社団法人日本下水道協会より、下水道用資器材製造工場の認定を受ける。
- 平成12年 戸畑運輸製函株式会社より、段ボール部門の営業を譲り受け、戸畑工場を開設。
- 平成16年 段ボール事業部戸畑工場が、「エコアクション21」認証を取得。
- 平成19年 中津工場、及び、中津新田工場が、「エコアクション21」認証を取得
- 平成19年 段ボール事業部が北九州市主催のエコテクノ2007年に出席。
- 平成23年 管理本部が「エコアクション21」認証を取得。
- 平成25年 段ボール事業部 戸畑工場がISO9001番を認証・取得。



1-4. 組織図



2.企業理念・環境方針

2-1.経営理念

「ひとの心の豊かさと高品質製品を目指して、企業の繁栄をはかり社会に貢献する」

2-2.企業行動憲章

1. 私たちは、技術革新と徹底した品質管理で、お客様のニーズを満足させる生産活動に邁進します。
2. 私たちは、人権を尊重し、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。
3. 私たちは、環境保全活動を推進し、地球資源を有効に活用します。
4. 私たちは、企業市民として、法令を遵守し、地域や社会に貢献します。
5. 経営トップは、自らの役割として企業倫理の徹底を図ります。

健全な事業活動を通じて、企業価値の向上を追求することが、企業としての社会に対する基本をなすものです。この「太陽インダストリー株式会社企業行動憲章」は、ステークホルダーの皆様の満足を実現するために、太陽インダストリー株式会社で働くすべての人々の活動の基本スタンスとするものです。

代表取締役社長 水口 真



2-3.環境方針

基本理念

太陽インダストリー株式会社 管理本部は、「企業行動憲章」に基づき、メーカーの管理部門としての責任を自覚し、地球環境改善を重要な課題と位置づけ、環境負荷の継続的な低減に積極的に取り組みます。

行動指針

環境負荷の低減を継続的に推進するため、以下の事項について重点的に取り組みます。

1. 二酸化炭素排出量の削減。
使用エネルギー(電気・ガス・ガソリン)の削減に取り組みます。
2. 廃棄物排出量の削減。
分別を徹底して、リサイクルを推進します。
裏紙の利用、書類の電子化などにより、紙使用量の削減に取り組みます。
3. 水使用量の削減。
節水に努め、水使用量の削減に取り組みます。
4. グリーン購入の推進。
環境負荷の少ない製品、サービスの採用を推進します。
5. 管理本部として会社全体の環境活動内容を掌握し、情報共有と事業所間の連携を図ります。
6. 事業活動に関連する環境関連法規等を遵守します。
7. 地域・自治体などと連携して、地域の環境保全に努めます。
8. この環境方針は、社員全員に周知するとともに、広く一般に公表します。

2010年8月1日
管理本部長 四辻 正信

2-4.実施体制図



役割分担表

	部署・役職	氏名	役割・責任・権限・使命
代表者 総括環境管理責任者	専務取締役 管理本部長	四辻 正信	<ul style="list-style-type: none"> • 全体の統括。 • 環境方針の策定。 • 環境目標・環境活動計画の承認。 • 環境への取り組みを実施するための資源の準備。 • 全体の評価と見直し。
環境管理責任者	本社管理部 部長	江頭 潤	<ul style="list-style-type: none"> • 全体の把握。 • 環境目標・環境活動計画の策定。 • 環境経営システムを構築・運用し、その状況を総括 • 環境管理責任者に報告する。
環境委員会	人事係 係長 情報処理係 主任 経理係 主任	菅原 直子 谷口 千鶴 橋本 亜由美 藤田 奈緒美	<ul style="list-style-type: none"> • 6ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する。
EA21推進事務局		立山 実	<ul style="list-style-type: none"> • 文書及び記録類の作成・維持・管理。 • エネルギー使用量の管理。 • 水使用量の管理。 • 廃棄物排出量の管理。

3.環境目標と過去の実績

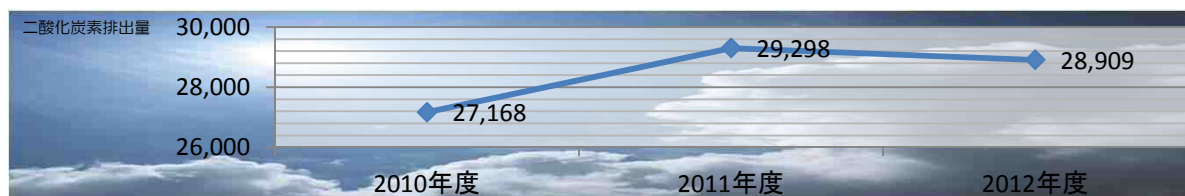
3-1.過去の環境負荷実績

過去3カ年度の実績値。年度毎に集計をしている。

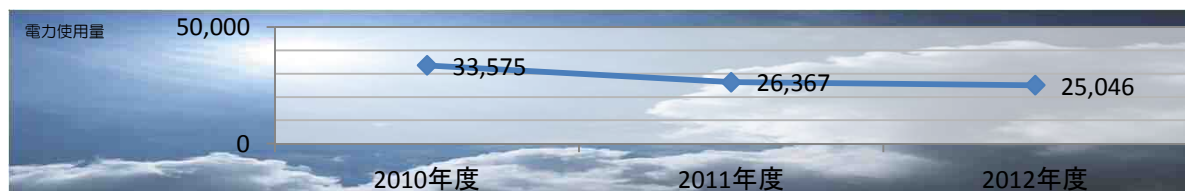
事業年度：4月1日～3月31日

項目	単位	2010年度	2011年度	2012年度
①二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	27,168	29,298	28,909
電力使用量	kwh	33,575	26,367	25,046
都市ガス使用量	m ³	60	39	37
ガソリン使用量	L	6,048	8,124	9,643
②水使用量	m ³	274	263	156
③廃棄物排出量※	kg	1,940	1,488	1,548

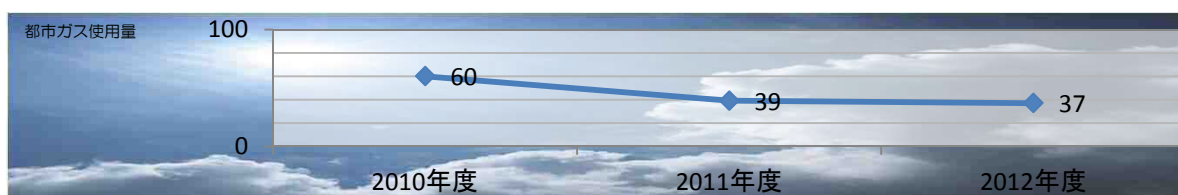
購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の係数(平成22年度)0.385kg-CO₂/kwhを使用。
都市ガスの排出係数は西部ガスの係数:2.29kg-CO₂/m³を用いた。



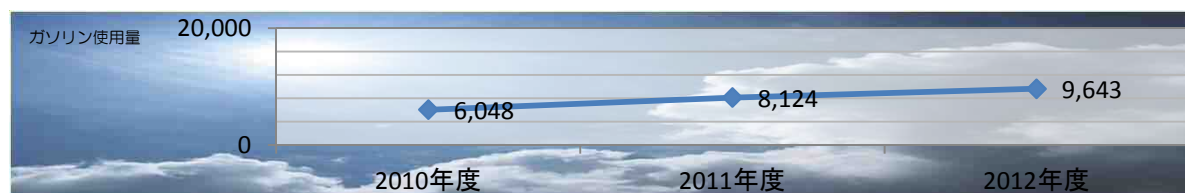
過去3年の推移として、上昇傾向にある。但し、電力使用量と都市ガス使用量は下がっているのに、ガソリン使用量が増加傾向にあったが、2013年度に会社の方針により、今まで本社で管理していた開発事業部の3台が管理対象から外れる事となり、ガソリン使用量も削減する方向へと向かう。



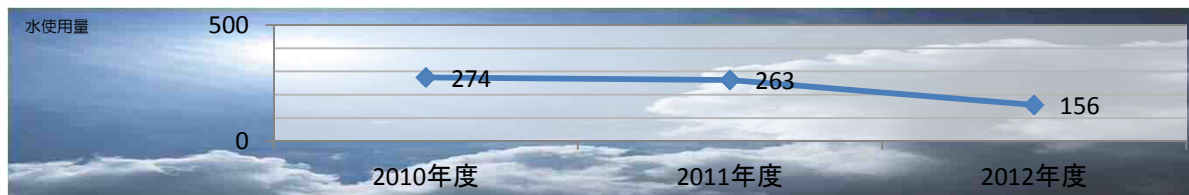
エアコンを毎年入れ替えて来た事により、ここ3年間は削減量が著しく減ってきているが、一通り設備投資も終わったので、以降は運用による削減手法を模索する必要がある。



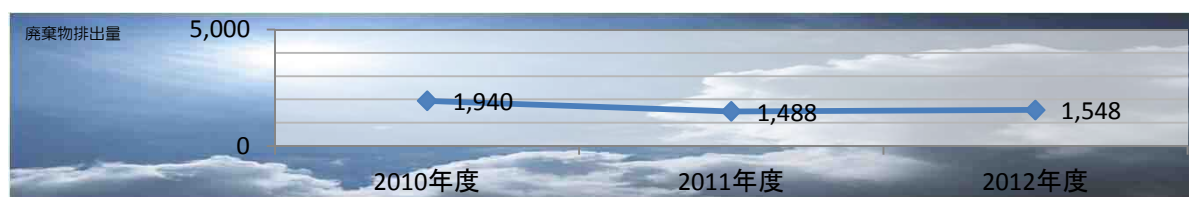
過去3年間の推移では、-23m³と3年前に比べ39%の削減を達成している。本社では炊事場及び更衣室の暖房器具以外は都市ガスを使わない事もあり使用量自体低く、二酸化炭素排出量に占める割合も2%程度であるが、環境負荷の低減を継続していく。



ガソリン使用量はここ3年間は、一貫して増加傾向にあった。理由は、本社に所属する開発事業部の営業活動が活発である為、営業活動の状況に応じて使用量も増加する傾向にあったが、2013年度より所属する場所が移った為、今後は事務で使用する2台のみとなり使用量の絶対値は低下する傾向にある。



水削減に関する取り組みは節水ゴマを導入する。節水を心がける等の活動を通して削減をしてきた。特別な取り組みは行っていないが、従業員一同の意識向上が改善へと繋がり結果として出てきていると思う。



廃棄物排出量は過去3年間の間では微減である。本社から出る廃棄物は書類等の紙類が8割近くを占める。これらは、経理関係の書類なので、一概に削減する事は難しい。できるだけ一般廃棄物を出さないように削減活動を行う。

3-2. 中期の環境目標

項目		単位	基準値 2012年度実績値	2014年度目標	2015年度目標	2016年度目標
①	1 電力使用量	kwh	25,046	24,796 -1%	24,545 -2%	24,295 -3%
	2 都市ガス使用量	m³	37	37 0m³	36 -1m³	35 -2m³
	3 ガソリン使用量	L	1,092	1,084 -0.9%	1,077 -1.8%	1,070 -2.8%
二酸化炭素排出量		kg-CO2	12,261	12,148 -0.9%	12,033 -1.8%	11,917 -2.8%
②	水使用量	m³	156	154 -2m³	153 -3m³	151 -4m³
③	廃棄物排出量	kg	1,548	1,517 -2%	1,502 -3%	1,486 -4%
④	会社全体の活動把握	回	1	1回/月	1回/月	1回/月
⑤	会社周辺の清掃	回	2回/週	2回/週以上	2回/週以上	2回/週以上

後程、詳細は「5-1.環境目標の達成と判定」「5-2.講評」でも報告しますが、2013年度は目標達成率が悪化してしまいました。その為、基準値を前年度計画していた値から見直し2014年度以降は、上記の様な目標を掲げ環境活動を取り組みます。

4.環境活動計画

2013年度の環境活動計画は、環境方針・環境目標に沿って、次の通り環境活動計画を策定しました。

尚、削減目標値は2012年度の実績値を基準として、そこからの削減割合を記載しています。

1.二酸化炭素排出量を 0.9% 削減			
手段		活動内容	
1	電力使用量を 1% 削減	1	エアコン使用時の室内温度を冷房時28℃、暖房時20℃に徹底
		2	不要な照明の消灯を徹底
		3	パソコンを省電力設定に変更
		4	省エネ設備に入れ替え
2	ガソリン使用量を -0.65% 削減	1	エコドライブの励行
		2	アイドリングストップの励行
		3	燃費管理
		4	省エネ車両導入
3	都市ガス使用量 前年維持	1	給湯器等の効率使用
2.水使用量を -2 m ³ 削減			
手段		活動内容	
1	節水活動	1	節水の徹底
		2	節水コマの導入
3.廃棄物排出量を 2% 削減			
手段		活動内容	
1	コピー用紙量の 使用量削減	1	紙のリサイクル
		2	その他のリサイクル
4.グリーン購入の推進			
手段		活動内容	
1	グリーン購入の推進	1	事務用品のグリーン購入
5.会社全体の活動把握			
手段		活動内容	
1	会社全体の活動把握	1	環境会議議事録の取りまとめ、及び、配信
6.会社周辺の清掃			
手段		活動内容	
1	会社周辺の清掃	1	会社周辺の清掃

5.取組結果と取組内容、次年度の取組内容

5-1.環境目標の達成と判定

環境目標		単位	目標値	実績値	判定
二酸化炭素排出量の削減		kg-CO ₂	12,269	13,057	×
1	1-1 電力使用量の削減	kwh	24,796	25,097	×
	1-2 都市ガス資料量の削減	m ³	37	44	×
	1-3 ガソリン使用量の削減	ℓ 当	1,084	1,356	×
2	水使用量の削減	m ³	154	179	×
3	廃棄物排出量の削減	kg	1,533	1,478	○
4	会社全体の活動把握	回	1回/月	1回/月	○
5	会社周辺の清掃	回	2回/週以上	3回/週	○

5-2.評価

・二酸化炭素排出量は+891kg-CO₂と目標値を上回ってしまいました。今期は、二酸化炭素、都市ガス、ガソリンの各使用量が目標に達しておらず未達となっております。

・電力使用量削減に関しては特に悪化する要因はありませんが、+51kwhとわずかに目標値を上回ってしまいました。日々の節電に気を配っていましたが、前年比で大幅に悪い月もなかったため、来期以降も地道に節電活動を継続します。

・都市ガス使用量削減も目標値を上回ってしまった。電力同様に悪化する要因は無かったが、冬場の寒い時期で水を使う作業（清掃）が増えると必然的に使用量も増えるのでその対策を検討する。

・ガソリン使用量は目標値と比べると+264ℓと大きく増加(悪化)してしまった。2台の内燃費があまり良くない(大型)方を中心に、遠方に巡視等行く際に多用した為である。来期はより一層のエコドライブを心がけ、使用量の削減を目指します。

・水使用量は、目標値に対して23m³増となっております。期の途中で前年と比べても使用量が多かったのでメーターによる日々の計測をした所、誰も使わない時間帯の間もメーターが動いていた事から水漏れの恐れがあり業者に確認した所、水漏れの可能性が濃厚である事が分かりました。しかし、水漏れ箇所は特定できておりませんので、来期以降はそれを踏まえて活動を検討します。

・廃棄物排出量は目標を達成できました。昨年に比べて排出量の8割程ある古紙類の廃棄物の処分回数が2012年度は4回⇒2013年度は2回と半減した事が大きいと思います。

5-3.取組内容



エアコン使用時の室内温度を冷房時28℃、暖房時20℃に徹底することにより電力使用量を削減する事に貢献しました。各所のエアコンパネルの前にこのように表示をしています。

普段使用していない箇所の電灯は消しています。消費電力からすれば微々たる物ですが、普段から節電に対する意識付けを心がけています。



サーバ-室の老朽化したエアコンを省エネ効果の高いものへ交換しました。これにより社屋のエアコンは一通り交換し終わりました。

エコドライブのポイントを記載した「エコドライブ10のススメ」を作成し、各社用車を使用するドライバーに配布しました。

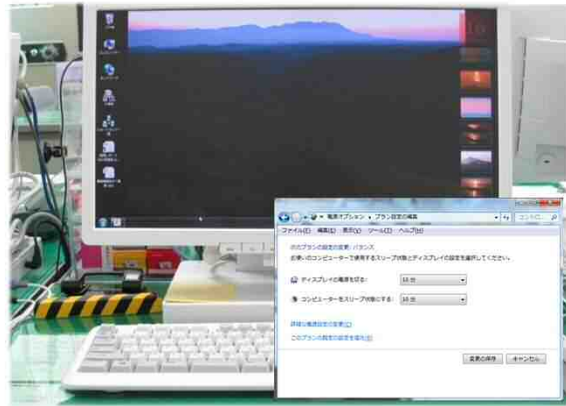


水道を使用する場所には、上記の表示を設けて節水に対する意識を促しています。

各所に置いてあるゴミ箱には上記のような表示を設けております。分別収集は直接ゴミ削減にはなりません、環境に対する意識向上になります。



2010年度から継続して、裏紙用ボックスを設置し社内資料等は裏紙を使用するように努めています。



長時間、使用しない場合にはスリープ機能を使い休止状態にし、少しでも電力消費量を抑えるようにしています。

5-4. 次年度の取組内容

次年度も引き続き今年度と同様の取り組みを継続していきます。環境負荷に関しては今季までは明細書からの数値で把握していましたが次期は、メーターの数値を確認してより詳細なデータを把握していく事により、更なる環境負荷の低減の足掛かりにしていきます。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟等の有無

当事業所に適用される環境に関する法規についての遵守状況の評価の結果、逸脱はありません。過去1年間、違反・訴訟もありません。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価及び見直し実施日		2014年5月30日
評価	環境経営システムが有効に機能しているか	問題なく有効に機能している。
	環境への取組は適切に実施されているか	水漏れを見つける等の自助努力を行いながら問題点を見つける点で積極的に取り組んでいるように感じられるが一部年間計画の予定を実施していない所もあるので、来期は計画通りに取り組みを実施して欲しい。
見直し (変更の 必要性・ 指示)	環境方針 変更の必要性	現時点では必要性を感じない。
	環境目標 変更の必要性	主要項目の中では廃棄物排出量の削減以外は目標未達なので当初計画していた中期目標を一部変更し2014年度は従来値から目標値を変更する。
	環境活動計画 変更の必要性	設備計画は一通り終わっているので、設備投資に関する内容は減らす。
	環境経営システム等 変更の必要性	現時点では必要性を感じない。